

日田旅行と羽柴先生

大 良 善 男

(会員・佐伯市青山)

去る十月十九日佐伯史談会副会長羽柴弘先生が亡くなられました。真に哀悼の意を禁じ得ません。佐伯史談会の活動を今日の如く大にし、隆盛に導いたその原動力は、羽柴先生であるとかれもが考える事でしょう。そのうむ事を知らぬ研究中心と行動力は、高德高邁な高木会長・博学な幹部諸先生の力と相待って、此の史談会が非常に勝れた会に成長したものだと思えます。

私は無学な田舎者で羽柴先生もくわしくは存じ上げなかったのですが、たまたま史談会の旅行を通じて、先生の暖かいお世話ぶりに直接ふれまして感銘を深くしたものです。

それは四十五年七月十六日出発の日田旅行でした。行程は一泊二日で日田・中津方面を見学すると云うものでした。案外人数は少なく確か十三名だったと思います。龍護寺の和尚さんも御一緒でした。日田での広瀬邸での事、墓参や感宜園、亀山公園夜は鵜飼を見ながら船上で

の夕食、中津では福沢邸や中津城内など、今なお脳裏によみがえってまいります。わずか二日の旅ですが、この旅行に際して羽柴先生から頂いた親切な指導は、史談会に入って初めての事であっただけに、強く印象づけられ忘れられません。私も家内も研究心はとほしい方ですが、旅行は大好きなので今まであちこちと連れて行って頂き、その都度先生のお世話になって居ました。近年の長距離旅行には先生がご同行されないようになり、何か淋しい感じで心配していましたが、ご病気が追々と重くなられ、ついに天国に召されました。返えず返えすも惜しい人を亡くしたものです。惜しまれてなりません。

西野の小道

岡 千 代

(会員・佐伯市東区)

羽柴先生は、大分合同新聞夕刊の灯欄によく寄稿されておられました。それは史談会員を、現地見学をさせる為の下見探行で行かれた所を、つぶさに書いていることが多く、度々拝読しているうちに解ってまいりました。ある時は、郷土史の誤りを見出し出して正したりされる先